介護新聞 2012年(平成24年)4月19日 第649号 〈週刊〉

# 介護新聞

2012年(平成24年) 4月19日 毎週木曜日発行
年間購読料：12,000円（前納、税・送料込）
発行所 株式会社 北海道医療新聞社
〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目（北海道医師会館）
011(221)7777 ホームページ http://www.medim.co.jp

## 北広島・あしすと

# 「医療→介護」切れ目ないリハ提供

## 個別対応重視、短時間・小規模デイ

## ＰＴが独立開業

## 市内では初 退院患者受け入れも

医療から介護への切れ目のないリハビリ提供へ―。北広島市・デイサービス「あしすと」は、市内初となる理学療法士が行う個別リハ重視の短時間・小規模型だ。リハの重要性が叫ばれる中、道内でリハ職が独立開業するケースは数少ないのが現状。関係者からも注目を集めており、ケアマネと連携して退院患者支援にも積極的に取り組んでいる。

『個別リハビリ推進型』。同事業所が掲げる特徴の一つだ。市内医療機関に勤務していた田中敏樹管理者はPTとして八年目を迎え、その前は鍼灸師として八年間リハに関わってきた。地域リハにも携わり、「専門性を生かして社会貢献できることはないか」と考えていた。

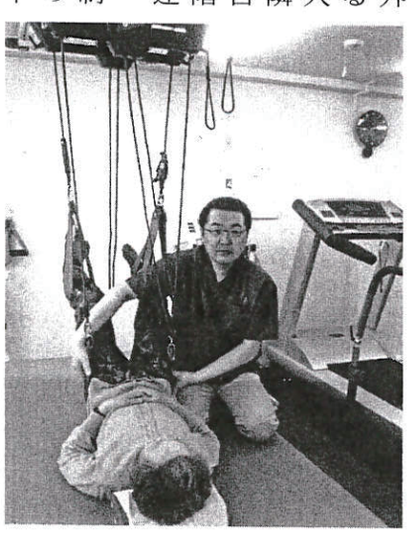
デイ開設のきっかけは、内閣府が実施している地域社会雇用創造事業（実施団体・北海道地域再生推進コンソーシアム）「社会的企業・起業プランコンペ」での採択だ。診療報酬改定に伴い継続したリハを受けられなくなった人たちへの支援、高齢になっても障害を持っても住み慣れた地域で生き生き暮らせる地域づくりの必要性を訴えた。

個別リハメーンの通所介護に居宅介護支援事業所を併設。介護保険や福祉用具、リハ等の相談対応、地域ニーズ把握の場として、虚弱高齢者らも気軽に集える「カフェコーナー」設置なども提案した。

介護保険事業という社会性の強さ、保険外への対応も必要になると感じ、一般社団法人格を取得。札幌市に隣接する大曲中央一丁目の賃貸マンション一階に構えるテナントで運営を始めた。

午前・午後の二部制（水・土曜日は午前のみ）で、日曜日と年末年始を除き祝日も営業。市内のほか、札幌市の清田、里塚、美しが丘、上野幌もエリアに提供している。

柔道整復師、あん摩・マッサージ指圧師も配置し、脳血管疾患や整形外科疾患のほか、神経難病の利用者にも対応。小規模通所介護の良さを感じ、集団レクリエーションが苦手な人も利用している。ケアマネから紹介を受けて退院時の一時外泊で体験利用した人もおり、退院後の継続支援につながるケースが出てきた。



利用者一人ひとりの心身の状況に応じた個別リハへ、機能評価を重視。「旅行に行けるようになりたい」「車の運転ができるようになりたい」など具体的目標を設定する。

リハは徒手療法など手技だけでなく、トレッドミル、エアロバイク、チューブ、全身対応可能な「レッドコード・メディカルプロ」、痛み緩和やクールダウンには超音波、温熱、空気圧マッサージ等の機器も活用。人前だと頑張り過ぎてしまう利用者もいるため、会話の中から本人の性格や思いを把握する関わりを大切にしている。

身体機能の評価はできる限り数値で示し、数値化できない動きはビデオカメラで撮影し確認してもらう。活動的な生活を送れるよう、姿勢や歩行など生活上の注意点もアドバイス。「できるようになった動きや活動を利用者と共有し、前向きに取り組めるような声かけを大切にしています」。評価に重点を置き、伝え方を工夫するのは利用者のモチベーションアップに影響するからだ。

▼お茶を入れて運べるようになった▼まひしていた手を上げられるようになった▼腰痛が軽減した―など効果を実感する利用者が増え、登録者は開設から約二カ月で二十人強になった。

今回の介護報酬改定では自立支援型サービス強化・重点化が柱の一つとして打ち出され、リハや機能訓練を重視する流れは今後も続くことが予想される。「地域で実践するリハ職が他の地域にも現れ、個別リハに力を入れる事業所が広がれば」と期待する。

……利用者の意欲を引き出しながら個別リハを行う田中管理者